

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●菊花賞ではアスクビクターモアがレコードでG I 初制覇

10月23日(日)に行われた菊花賞(G I)ではアスクビクターモア(牡3歳/美浦・田村康仁厩舎)が優勝、G I 初制覇を果たしました。勝ちタイムの3分2秒4は、2001年阪神大賞典でナリタトップロードが記録した3分2秒5をコンマ1秒上回る阪神・芝3000mのコースレコード。またディーブインパクト産駒は菊花賞5勝目、クラシック競走24勝目となり、いずれもサンデーサイレンス産駒の記録(菊花賞4勝・クラシック競走23勝)を抜いて単独トップとなりました。

●今村聖奈騎手がJRA 女性騎手の年間最多勝記録を更新

10月23日(日)の4回新潟4日・第2レースではフェステスバントが1着となり、同馬に騎乗した今村聖奈騎手(栗東・寺島良厩舎)は、今年のJRA 44勝目をあげました。これは2019年に藤田菜七子騎手(美浦・根本康広厩舎)があげた43勝を更新する、JRA 女性騎手の年間最多勝記録となります。

●ロンジンワールドベストレースホースランキング発表

IFHA(国際競馬統括機関連盟)から恒例の「ロンジンワールドベストレースホースランキング」が発表されました(単位はポンド)。今回の発表分は2022年1月1日から10月9日までに実施された世界の主要レースが対象で、日本調教馬ではタイトルホルダーが第7位タイ(124)にランクインしています。

●2023年度の開催日割および重賞競走発表

2023年度の開催日割、重賞競走、競馬番組上のルール変更などが発表されました。年初は1月5日(木)に中山・中京でスタートし、年末は12月28日(木)の中山・阪神まで。平年の1回および2回京都是2022年と同様に中京または阪神での振り替え開催となりますが、4月22日(土)より京都競馬が約2年半ぶりに再開します。このほか、紫苑S(G III)のG II昇格申請(日本グレード格付管理委員会に申請)と、騎手の健康などの観点から、馬齢重量および別定重量における基礎重量と最低負担重量が引き上げられることが発表されています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ヤングジョッキーズシリーズ トライアルラウンド名古屋の結果

2022ヤングジョッキーズシリーズ トライアルラウンド名古屋は10月27日に実施され、第1戦は浅野皓大騎手(愛知)、第2戦は古川奈穂騎手(栗東)が優勝しました。

●盛岡のJBCにテーオーケインズ、ショウナンナデシコらが参戦

JBCクラシック(Jpn I、11月3日、盛岡、2000m)は、テーオーケインズが中心、以下メイショウハリオ、クラウンプライド、パイシャエス、カブジオクタゴン、オーヴェルニュ、クリノドラゴンの順に有力視されます。

JBCスプリント(Jpn I、11月3日、盛岡、1200m)は、ダンシンダブリンス、レッドルゼル、ティエムサウスダン、ヘリオスの上位が拮抗しており、リュウノユキナ、イグナイター(兵庫)、スマートダンディー、ラプタスが続きます。

JBCレディスクラシック(Jpn I、11月3日、盛岡、1800m)は、ショウナンナデシコが筆頭格も、プリティーチャンス、テリオスベル、グランブリッジ、サルサディオオーネ(大井)もさほど差はなく、レースプランシュ、ヴァレーデラルナまでが争覇圏内と考えられ、アナザーリリックは初のダートが課題となりそうです。

JBC 2歳優駿(Jpn III、11月3日、門別、1800m)は、JRA 所属馬ではナチュラルリバー、エコロアレス、ゴッドインパルス、テレパシー、ゴライコウという序列になると思われますが、地元北海道のベルピット、オーマイグネスが強敵です。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G 1 コックスプレート～アナモーが7つ目のG 1 制覇

今年で創設100周年を迎えたG 1 コックスプレート(3歳上、芝2040m)が、現地10月22日にオーストラリア・ヴィクトリア州のムーニーバレー競馬場で行われ、J.マクドナルド騎手が手綱を取ったアナモー(牡4歳、父ストリートボス、J.カミングス厩舎)が4番手追走から直線で抜け出して優勝しました。アナモーはG 1 初制覇となった2歳(2021年)4月のATCサイヤーズプロデュースS(芝1400m)から数えて7つ目のG 1 制覇。今季はウィンクスS(芝1400m)、ジョージメインS(芝1600m)、コーフィールドS(芝2000m)に続いてG 1・4連勝となりました。

●G 1 フェューチュリティ～ディーブインパクト産駒が制す

10月22日にイギリスのドンカスター競馬場で行われたG 1 フェューチュリティロフィー(2歳牡・牝、芝1600m)は、ディーブインパクトの最終世代の1頭であるオーギュストロダン(牡2歳、愛A.オブライエン厩舎)がR.ムーア騎手を背に3馬身半差で快勝しました。ロッキンジSを含むG 1・3勝をあげたロードデンドロンを母に持つオーギュストロダンはこれで4戦3勝。前走9月のG 2 ゴールデンフリースS(芝1600m)で重賞初制覇を果たしていました。